

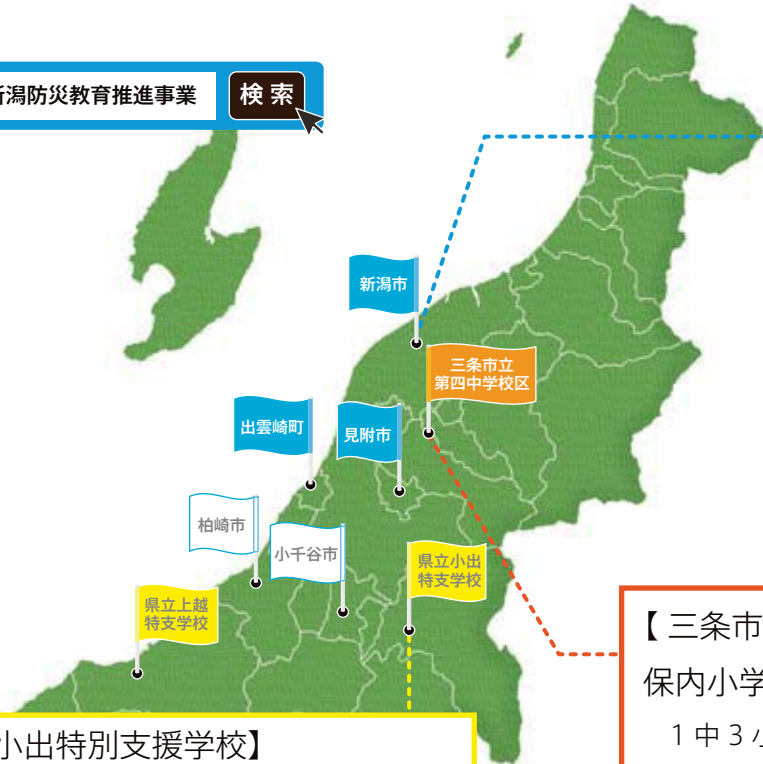
防災教育の自校化を見据えた実践に対する補助金事業の活用状況について

ふるさと新潟防災教育推進事業の活用状況は？

平成 27 年度の「ふるさと新潟防災教育推進事業(学校実践)」の活用状況です。市町村立学校の取組は、市町村として申請するケース(青旗)、各学校単位で申請するケース(橙旗)と 2 通りあります。県立学校では特別支援学校 2 校が取組をスタート(黄旗)しているほか、申請に向けて準備中(白旗)の地域も増えてきています。

補助金を活用できる期間は平成 27 年度～平成 31 年度までとなります。不明な点、ご質問、ご相談等あれば、お気軽にお問い合わせください。各校の取組も「ふるさと新潟防災教育推進事業公式ホームページ」にて随時紹介していきます。

ふるさと新潟防災教育推進事業



【新潟市】
新潟市教育委員会学校教育課が窓口となり、防災部局や地域機関とも連携しながら 5 年間で市内全 168 校での自校化に取り組む計画で、今春、事業をスタートしています。
各校とも取組期間は 1 年間としており、前年度の実施校が翌年度の実施校をフォローしながら進めていく方法や、各校への個別サポートを NPO に委託している点がユニークな取組です。

【三條市立第四中学校・井栗小学校・旭小学校・保内小学校】
1 中 3 小で構成される中学校区にて、小中一貫教育 9 年間で郷土愛を育成する防災学習の教材及び取組の検討を開始しています。9 年間の学びの足あととして活用できる防災ノートの作成及び学びの集大成として、防災リーダーとして地域に貢献できる四中レスキューの育成を目指します。

【県立小出特別支援学校】
オープンスクールや授業参観日を活用し、保護者や地域住民と一緒にした引き渡し訓練や、体験型授業の実施、防災施設の見学などに取組めます。

ふるさと新潟防災教育新聞とは？

防災教育の実践に役立つ 先生のための情報紙

- ・他校の取組がわかる！
- ・悩みや相談窓口がわかる！
- ・計画づくりの参考になる！

本紙は、「ふるさと新潟防災教育推進事業(学校サポート)」の一環として発行する公式媒体として、県内の学校における防災教育の実践事例の紹介・教職員の実践に役立つ情報等を県内全ての小・中学校及び特別支援学校に届け、より一層の防災教育の推進と定着を目指して、年 4 回発行する情報紙です。

【公式ホームページ】

<http://furusato-bousai.net/>

または

ふるさと新潟防災教育推進事業



三条市立第四中学校
古市 友美教諭



profile
古市 友美教諭
・校内環境安全プロジェクトの
防災教育担当長
・赴任3年目。専門教科は英語
・県防災教育PG【洪水災害編】
のモデル校の教師として防災
教育の自校化に取組む。

教師の願い

「率先避難者たれ」という言葉の本質を、誤解無く子どもたちに伝えたい！

「率先避難」と聞いた時に、たぶん子どもは真っ先にとび出して逃げることに受け取ると思います。洪水災害は、外に出たがために危険な目に合うという場所もあります。様々な状況を理解するための知識。それをつなぐ思考力と判断力が重要なのです。子どもたちが自分の身を守るためには、どういうことを授業で伝えたらいいのか悩みました。「最善の行動をとること」をキーワードにして、「自分の身を守るための最善の行動は何か」ということを、自分の住んでいる地域性・洪水災害が発生したときの特徴・危険を回避する対処行動など、獲得した知識をつなぎ、「自分にとっての最善を選択して、行動できる力の育成」に繋がりたいと思いました。



転ばぬ先の杖ではなくて、自分の人生を考えていく上で芯となる教育。奥が深く、教育の持つ貢献する力の高い学習です。1人でも多くの先生方に取り組んでほしいと願っています。

災害から逃げる・被害を防ぐ軽減するというだけでなく、自分がこれかどのように生きていくのか、子どもたちが自分の将来と向き合スタート地点だと思っています。

三条市立第四中学校における防災教育は、

命を守る教育 × 地域を生きる人材育成

すなわち、**生き方教育**である。



写真
左 / 五十嵐教頭
右 / 古市教諭

三条市立第四中学校の防災教育 平成27年度の年間指導計画の概略

防災教育が目指す生徒像

防災についての基礎的・基本的知識を理解し、考え・判断する力、行動する力を高めさせることによって防災について適切な行動ができる生徒

1学年	総合 洪水：洪水の具体的な避難方法を考える（1時間） 津波：津波の仕組みと逃げ方を学ぶ（2時間）等	
	教科との関連 理科：「大地の成り立ちと変化」「大昔を語る大地～地層～」 社会科：「日本列島の自然災害」 災害のメカニズムを学ぶ 等	
2学年	総合 洪水：避難することのできない人間の心理を理解する（1時間）等	
	教科との関連 社会科：「身近な地域」 校外学習にて土砂災害現場の見学（3時間） 保健体育：「健康、安全」 ストレスコントロール・衛生管理の視点から避難所での生活を考える 英語：「身近な表現」 体調を訴える・尋ねる視点から、災害時の外国人とのコミュニケーションの取り方を学ぶ 等	
3学年	総合 洪水：自然と向き合い主体的に防災に取り組む姿勢を学ぶ（1時間） 四中レスキュー：防災教育の中で、授業で理解したことを実践する場として技能講習を行い、将来、地域を担う中学生として防災に対する姿勢や考え方を身に付ける（10時間）	
	教科との関連 音楽：曲の良さをプレゼンテーションしてみよう 心を癒す曲・元気の出る曲調を知り、災害時の心のケアを考える 公民：「安心して暮らせる社会」 等	
全学年	避難訓練 総合 中学校区の小学校・地域・行政と連携した洪水避難訓練及び小・中合同防災訓練（3時間） 校区内の児童・生徒を一旦下校させ、防災無線放送を合図に、避難所への避難訓練を実施。避難所では地域の小・中学生同士が顔見知りになるレクリエーションを行い、四中レスキュー（3学年の生徒）が、中2及び小5,6年の子どもに、けが人の搬送方法を指導する。	

小・中合同洪水防災訓練の活動の流れ

①中学校区一斉洪水避難訓練
・防災無線を聞き、非常用持出袋を持って、各避難所へ避難する



最寄りの小・中学校に避難する

②顔見知りの関係性づくり
・自治会単位で子ども同士の交流を深める



自己紹介と子ども同士で名前を覚える

③防災技能講習（中2・3、小5・6のみ）
・四中レスキューが、けが人の搬送方法を指導する
・非常用持出袋の中身を紹介し合う



1人での搬送方法（その1）



2人での搬送方法



避難してきた人を先生に報告する



班内のリーダーを探して集合する



1人での搬送方法（その2）



非常用持ち出し品を紹介し合う

子どもの反応

- ・避難訓練のときに中学生と一緒に歩いてくれて良かった。（小学生）
- ・中学生と話すのは緊張したけれど、名前がわかったし、優しかったので安心した。（小学生）
- ・1人でけがをした人を運ぶのは難しいけど、2人ならできそうと思った。（中学生）
- ・災害時に1人でも多くの人を助けられるように、色々な人に知ってもらいたい。（中学生）

学んだ子どもたちの成果発表と交流，創造の場「子ども防災未来会議 2015」防災かべ新聞コンクール開催！

昨年度に新潟日報社の主催で開催された「防災かべ新聞コンクール」の趣旨を継承し，防災について学習した子どもの学習成果の発表と交流，そしてよりよい未来を子どもと大人が創造していく機会として開催します。様々な自然災害を経験している新潟県民として，教訓を語り継ぎ，県民全体で安心安全なまちづくりについて考えます。

子ども防災未来会議 2015

平成 28 年

1/30

(土曜日)

学びを伝え合う，発表と交流の場

防災かべ新聞コンクール

概要：防災について学んだ成果としてかべ新聞を募集します。審査会で選ばれた作品の応募団体は表彰式に参加していただきます。また，県内3箇所では選ばれた作品の展示会を予定しています。

対象：小学校中学年～中学生

エントリー締切：11/2（月）

提出期限：11/25（水）必着

審査：12/ 上旬 結果発表：12/ 中旬

ポスターセッション・表彰式：H28/1/30（土）午前

会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

※子ども防災未来会議の詳細は「ふるさと新潟防災教育推進事業 公式ホームページ」にて随時更新していきます。

【公式ホームページ】 <http://furusato-bousai.net/>

または

[ふるさと新潟防災教育推進事業](#)

検索

主催：(特活) ふるさと未来創造堂
(公社) 中越防災安全推進機構

協力：群馬大学大学院理工学府広域首都圏防災研究センター，新潟日報社，みらいず works

後援：新潟県，新潟県教育委員会，新潟市（予定），新潟市教育委員会（予定），長岡市（予定） 他

学びを生かす，創造の場

概要：県内の防災について学んできた子どもが，専門家を交えて安心安全なまちづくりのために何ができるのかを話し合います。自然災害から人の命が守られる社会を目指して，よりよい未来を創造していく機会を設けます。

対象：小学校中学年～中学生 20 名程度

※防災かべ新聞コンクールエントリー校のうち，審査会で選ばれた学校から代表を2名程度推薦していただきます。

日程：H28/1/30（土）13：30～16：00（予定）

会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

こんなことは可能？ 「ふるさと新潟防災教育推進事業」Q&A

Q 「防災教育に使える映像や画像などの教材を紹介または提供してもらえないか？」



A 「中越防災安全推進機構までご相談下さい。先生のイメージに合った教材等を紹介または提供します。」



次回予告

次号（2015・秋号）では，現在制作中の新潟県防災教育プログラム【原子力災害編】



写真 原子力災害編モデル授業の様子

のモデル校「出雲崎町立出雲崎中学校」の取組を紹介し，検討中プログラムのモデル授業では，様々な工夫を織り交ぜ，この夏には行政・地域と連携して「避難所開設・運営訓練」を実施する予定です。お楽しみに！

ふるさと新潟防災教育新聞 Vol.2 (2015・夏号)

監修：新潟県教育委員会

発行：公益社団法人 中越防災安全推進機構 地域防災力センター

長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 2 階 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい /

TEL 0258-39-5525 / FAX 0258-39-5526

ホームページ：<http://furusato-bousai.net/>

[ふるさと新潟防災教育推進事業](#)

検索



取材・編集：NPO 法人ふるさと未来創造堂 / 長岡市福住 3-4-39 / TEL 080-6650-8238 / FAX 0258-94-4582